

# 輸出事業計画

※申請者名：全国農業協同組合連合会秋田県本部、品目：りんご

## 1. 輸出における現状と課題

### <輸出の現状>

- ・県内の主なりんご産地は横手市、湯沢市、鹿角市。
- ・「ふじ」を中心に多様な品種(つがる、早生ふじ、シナノスイート、秋田紅あかり、王林等)を栽培。
- ・秋田県オリジナル品種「秋田紅あかり」が輸出の重点品種。極甘で香りが良く酸味が少ないのが特徴。
- ・検疫条件が比較的に緩い香港をターゲットに平成25年から輸出開始し、現在は香港・シンガポール・マレーシア向けに輸出拡大を図っている。
- ・生産基盤が縮小し小ロット生産の当産地より生産量が多くブランド力の高い競合産地の取扱が中心となっており、輸出先国経済の不安定化の影響で、令和4年度の輸出実績は約2,300万円、令和5年度は約1,400万円、令和6年度は約500万円と年々減少している。
- ・高所得者層だけでなく中・低所得者層をターゲットとしたリーズナブルな規格等も検討。

### <輸出の課題>

- 【生産】・担い手不足や令和2年度の雪害による生産量の減少、温暖化による栽培の難化。
- 【販売】・単発や短期での取引が中心となり、長期的な取引に繋がらない。
  - ・継続的な取引に向けた秋田県産りんごの棚割確保のため、「秋田紅あかり」に加えて他品種の提案が必要。
- 【流通】・物流規制の改変により指定納品場所への直送が難しい状況があり、販売機会の取り逃しに繋がる。

## 2. 輸出事業計画の取組内容

### 【生産】①栽培労力の省力化と面積維持

- ・一部JAで後継者のいない園地等を加工用園地として現役生産者に管理依頼し、全収穫量をジュース加工用として買い取る取組を実施中。担い手不足の背景のもとりんご生産面積維持のため、全県に取組拡大していく。

### ②スマート農業の導入推進

- ・JA秋田ふるさとが主体となってロボット草刈機の実演会や運搬や防除など幅広く活用できる小型多機能ロボットのモニター試験などを行い、その動きを加速化させる。

### ③輸出用産地の維持・拡大

- ・温暖化による着色難への対策(高温に対応した栽培体系の確立、品種改良等)を図り「秋田紅あかり」の面積維持を促す。加えて価格のメリットを産地に提示することで、輸出数量シェアを増やす。

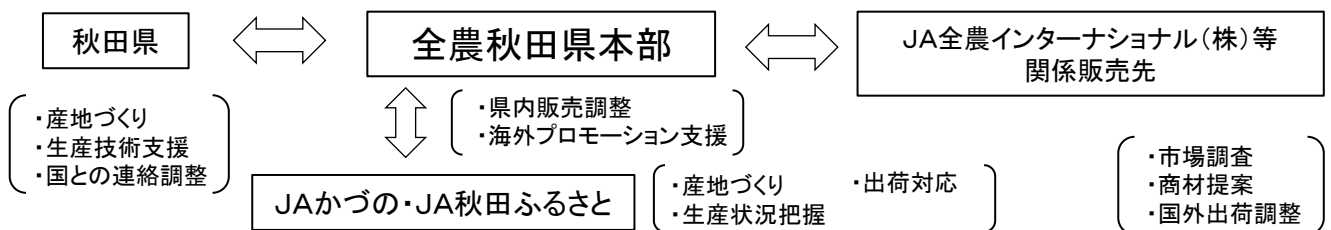
### 【販売】①輸出先での秋田県産りんごならびに青果物の長期販売の実現

- ・主力品種である「秋田紅あかり」を中心に中生種から晩生種までの県産りんごの提案・販促活動を推進する。また夏秋青果物の取扱を拡大し、量販店での秋田県産売り場の安定確保を実現する。

### 【流通】①大ロットでの出荷検討

- ・販売先との出荷ロットを協議しまとまった定量での出荷を検討する。また船便・空輸便のスケジュールに合わせた出荷計画を策定し事前の物流確保に努める。

## 3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



## 4. 輸出目標額

りんご	現状(令和2年度)	目標年(令和9年度)
輸出額	13,617千円	15,080千円
輸出量	24t	26t
輸出先国	香港	香港・シンガポール・マレーシア